

報 告 書

開催日時	令和4年5月19日(木) 19時00分 ~ 20時10分		
自治協議会名	阿波地域住民自治協議会	開催場所	阿波地区市民センター
出席議員	宮崎 栄樹、北森 徹、福岡 正康、桃井 弘子		
	班 長	宮崎 栄樹	記録・報告者 北森 徹
参加人数	17 名		

【今回のテーマ設定の主旨】

地域振興について（過疎地域の指定を受けて）は、大山田が過疎地域に指定されたことをきっかけに、地域振興について住民に考えてもらいたいというもので、防災情報アプリ HAZARDON（ハザードン）については、防災行政無線が無くなることや当該アプリの使い方などを住民に聞いてもらいたいというものだった。

【議会からの提言など】

過疎の充当事業については、地域でまとめていただくこととしながらも、「合併後、郡部はほったらかしだ」という意見を受けて、こまめまで市の周辺地域の振興を振り返りながら、マスタープランの地域拠点形成に向けた事業に充当させることなどの提言をした。

防災情報アプリハザードンについては、アプリの運用が開始されたが、自治協からのお知らせの入力ができないなど、機能面や今後の方針等について行政の説明が不十分であるとの意見を受けて、行政が果たす役割である「住民との情報共有」が疎かになっていることなどを話し合った。

その他、支所の地域担当職員の配置について、昨年7月に説明を受けていた配置ではないことについて、3月議会で当初予算を可決した議会の責任を問われ、議会としての反省を伝えるとともに、今後の活動で返していきたいという返答をした。

総括としては、行政がさまざまな事業において住民との情報共有や対話が十分でないように感じた。また、議会としても、住民から指摘を受ける事柄もあり、地域へ出向いて行くことの意義を再確認した。

【主な意見】

<地域振興について（過疎地域の指定を受けて）>

- ・定住や空き家対策に使ったらどうか。
- ・島ヶ原のキラッと輝け地域応援補助金や、包括交付金充当に使う方式はおかしい。
- ・地域の要望や問題点に使えば地域の振興になる。
- ・部会長から部会活動の提案をしてもらい、そこに充当する。
- ・自治協への包括交付金が減っている分の上乗せに使う。
- ・キラッと輝け地域応援補助金や絆補助金は、いずれも一つの事業に対しての補助金なので、二つ、三つの事業分に過疎債を使うか補助金の上限の上乗せに使う。

- ・知恵は自治協が出し、お金は行政が出せば、歳入は過疎債でお互いにwin-winになる。
- ・箱モノではなく、生活環境のかさ上げに使いたい。
- ・地域から要望をあげた道路の修繕にも、行政はなかなか修繕してくれないが、優先順位もあるが、小さな道路修繕にも過疎債を充当して下駄を履かせる上乘せの過疎債使用。
- ・地域が知恵を出すところに過疎債を使う。
- ・お金を使うのは旧上野だけで、この地域はますます過疎化する。良くなるのは旧上野だけで、1億円のトイレとか、あれで1億円なのか？
- ・伊賀市になって郡部がほったらかしになり、合併なんかしなければよかった。合併しなくても、大山田村でなんとかなったかも。
- ・さるびの温泉の地元住民の無料化。
- ・明石市長は、子どもに対して手厚い。
- ・大山田の花火は、毎年数千人も来ていたのに、予算がないから中止になった。
- ・三つのエネルギー（風力・水力・バイオマス）の再生エネルギーがあるので、若者や子ども達にSDGsに取り組む企画のツアーなどを発信して、夢のある企画を、議員が県外等で見たアイデアを、逆に提案して欲しい。

<防災・情報アプリHAZARDON（ハザードン）について>

- ・伊賀市からのお知らせは来るが、自治協、自治会のお知らせの入力ができない。
- ・防災行政無線が止まったら不安。
- ・大山田支所では、扱い方を知っていなければならないのに、防災担当も決まっていない。自治協、まち協を支援するといっていたのに、人員も減っている。街中の支所長でこの地域のことがわかるのか。それを分かって議会は予算を通したのなら、議会に残念。知らないなら、議会としても行政に対して意見して欲しい。
- ・行政の危機管理としては残念。

<市長・市議会議員の同時選挙について>

- ・今の議会を見ていると、一生懸命働いている議員と、そうでない議員がいるのが残念。人気投票ではなく、厳選できる仕組みを作って、車での移動投票とか工夫したらよい。
- ・せっかく信託を受けた議員なので、自ら任期を縮めるようなことをしなくても良いのでは。

伊賀市議会議長 様

令和4年6月27日

上記のとおり、地域意見交換会の概要について報告いたします。

令和4年度地域意見交換会 6 班

班長 宮崎 栄樹